

出て来て下さる なもあみだぶつ

アグネス・エンジエスカ

(訳・都路 初子)



仏教は私の心のふるさとなる

幸いなことに、私は、名号の偉大な働きに気がつくことが出来たのです。ある人が6年前「なもあみだぶつ」と称えました。浄土真宗も親鸞聖人もなにも知らなかったが、その瞬間、私は即座に「なもあみだぶつ」を称え始めたのです。何か偉大なものが私の中に入ってくるのを感じました。でもそれが何なのかはわかりませんでした。名号を称えながら今まで知らなかった人々に出会い、多くの仏教の本を読み始めました。このようにして仏教は私の心のふるさととなったのです。

阿弥陀さまからの贈り物「なもあみだぶつ」

しかしまだ自分にふさわしい宗派だとか、行についてはわかりませんでした。その頃、ワルシャワ空港で徳永、野村、ペール師という三人の僧侶に出会いました。それから、「なもあみだぶつ」と共に眠る生活が三週間ほどつづいた頃、朝、ふと目を覚ましたときに、もはや名号以外になんにもいない、すべての徳が名号の中にこめられているのだと気がついたのです。「なもあみだぶつ」と歩む生活は、私の行ではないけれど、素晴らしい行である。それは仏様からの贈り物であると、はっきりと知ったのです。名号の働きは私を変え、いつも新しい指示や暗示を与えています。だから念仏者は心のなかにある感謝を表わすことが大切だというのは本当です。このようなやさしい態度は名号によって生じるのです。名号が阿弥陀仏からの贈り物だからなのです。

薬あるからとて毒を好むべからず

今、私は親鸞聖人が道徳について言われていた「薬があるからといって毒を好むべからず。」ということがよくわかります。阿弥陀仏の呼び声に耳をふさぎ、病気を生み出す毒を好むように、悪い結果を生み出すような悪い行いをすべきではありません。我々はいつか阿弥陀仏によって救われるだろうけれど、それはいつなのか、毒によって苦しむよりも最善を尽くして健康であるほうがよいに決まっています。そして名号の働きが阿弥陀仏の導きを私達に知らせる最上の方法なのです。

ただ名号を称えるだけです

私が数年前、ポーランドで念仏の行を紹介しようとしたとき、ある人達からは間違いのように思われたのです。しかし6年たった今、念仏が私の人生を、家族を、友人を、どんなに変えてきたかを見ることが出来ます。

ポーランドで人々はたびたび私に次のように尋ねました。「よくわかった。仏教思想は素晴らしい、しかしどうしてそれを自分の一部にすることができるのかね。」私の唯一つの答えは、ただ阿弥陀仏の名号を称えるだけです。そうすれば名号が働くのです。阿弥陀仏の答えを聞いたその瞬間に、あなたの人生も変えられるでしょう。あなたはついに仏教思想と一体となるのです。

ポーランドにおいて、より大きな結果が今すぐには、はっきり表れてこないかもしれないけれど、もしかしたら私の生きている間には表れないかもしれないけれど、名号はきっと働いてくださることを強く願っています。

〈ヨーロッパ真宗会議でのアグネスさんのスピーチより抜粋〉

安心 (七頁)

前に出版された『安心』と同様、英訳は法師の素晴らしい筆墨で飾られている。それは見て楽しいものである。反対の頁には活字の日本語とローマ字訳がある。この詩のリズムを感じ取ることが出来る。これら全てが、深い思索と瞑想の対象としてのこの本の価値をいよいよ高めている。本書は、私共に静かな時間を見計らって手に取るように誘う。このような時は一日の中で仕事の手を止めて悟りの寂静の池で精神の渇を癒すための時である。

本書の末尾の部分は「参考文献」と「語彙」である。前者は理解を助けるための極めて有用なもので、真宗と禅宗の聖典からの引用である。これはそれ自体、読むだけでも楽しい。それは法師の語録に内容上つけ加えられたものではないが、法語に焦点を合わせ、私共の思索を助けてくれる。

「語彙」は極めて包括的で、参考文献であげられている聖典の概要も含んでいる。私は本書を心から愛読するものである。これはすべての仏弟子に訴えるもので、特に、私の禅の友人も喜んでくれるであろう。

(A五判 一三〇頁)

〔和訳文責・稲垣瑞雄〕